

「東京中部間連系設備に係る広域系統整備計画」 調達プロセス・工事内容の検証について

2021年7月14日
広域系統整備委員会
コスト等検証小委員会事務局

- 第1回コスト等検証小委員会（2017.5）で示された検証の方針は以下の通り。

1. 調達プロセスの検証

- ① 「東京中部間連系設備における『調達に関する基本的な考え方※（以下、基本的な考え方）』」（第2回コスト等検証小委員会 資料3）に示された発注方式と整合取れているか。
- ② 原則として市場原理を確保している発注方式となっているか。
（合理的な理由なく、競争入札以外を選択していないか等）
- ③ コスト低減の取組がなされた発注方式となっているか。

2. 工事内容（工事費）の検証

- ① 実施案や過去の工事实績との対比（物量に応じた工事費となっているか）。
- ② コスト低減施策を行っているか。
- ③ 実施案や過去の工事实績の概算工事に比べて増加する見通しとなった場合には、増加要因・理由や対応策。

3. 工事内容（工期）の検証

- ① 広域系統整備計画の工事完了時期に対しての変化内容・理由。
- ② 工期短縮に向けた事業実施主体の取組・方策も確認。
- ③ 広域系統整備計画の工事完了時期から遅延する見通しとなった場合には、対応策の検証。

1. 調達プロセスの検証

- ① 新富士変電所増強工事および静岡変電所増強工事の調達プロセスについては、より安価な事業者を決定する一般競争を採用するなど、事業実施主体が示す調達プロセスに関する基本的な考え方と整合している。
- ② 競争入札を採用しており、調達における競争環境は確保されている。
- ③ 加えて、コスト低減については、両変電所工事の一括発注方式の採用や、メーカーごとの受注希望パターンに基づく最適な組み合わせを選択できるカフェテリア方式の採用など、プロジェクト全体として現時点で考える採用可能な方策が検討されている。

2. 工事内容（工事費）の検証

- ① 過去実績と比較しても遜色なく、今回の工事費はモデルと同等の金額となっている。
- ② 新富士変電所工事における275kV送電線引込位置の見直しによるコスト低減や、静岡変電所における変圧器三次容量の見直し等によるコスト低減等、工事費全体として現時点では適正な検討が行われている。
- ③ 実施案や過去の工事実績の概算工事に比べて増加する見通しはない。

3. 工事内容（工期）の検証

- ① 広域系統整備計画策定時点の工事完了時期に対して、当初の予定工期内で可能となっており、現時点では特に問題は無い。
- ② 新富士変電所工事において、275kV送電線引込位置の見直しにより設備停止の短縮化も図ることができ、運開期確保に向けた検討が行われている。
- ③ 広域系統整備計画の工事完了時期から遅延する見通しはない。

4. 今後に向けて

東京中部間連系設備に係る広域系統整備計画のうち、新富士変電所増強工事および静岡変電所増強工事の調達プロセス・工事内容に関して提案の通り進めて頂く事となったが

- ▶ 事業実施主体は、今回示したコスト低減への取り組みに加え、更なるコスト低減について検討を継続するとともに、その他の工事についてもコスト低減に向けた取組が行われていくことが望まれる。
- ▶ 発注手続きにあたって公平性・透明性を確保するとともに、コスト低減方策を採用した発注方式により、引き続きコスト低減に向けた取組が行われることが望まれる。